

## 市長と話そう会

日時 平成30年7月10日(火) 10:00～

場所 朝日公民館 和室

参加者 朝日町で子育て中のお母さんたち7名と子どもたち

見学者 子育てサポーターなど29人



市民の皆様と市長が直接語り合う『市長と話そう会』第16回目は朝日町楽しく子育て実行委員会主催の「朝日町楽しく子育て講座」に参加されている子育て中のお母さんたちとの座談会でした。子育てサポーターなどの支援者が見守る中、市長とお母さんたちが子育て支援について様々な意見を交わしました。

### ◎「武雄市の子育て支援」について

市長から「自分が子供だったころの実体験」「自分の子育て体験」「今後の武雄市の子育て支援」についてのお話がありました。

#### ☆市長の二大子育て方針

- ・社会や地域みんなで子育てしよう。
- ・武雄市では、どのような境遇の子供であっても育ち、学べる社会にする。

現在、子育てにおいて「子供が体験する」ことを大事にする人が増えている。20世紀の「正解を探す」という教育から、21世紀は「協力して何かを作り出すことができるようになる」という教育にシフトしている。これを基本に子育て支援も考えていきたい。

### ◎「座談会」

参加者：武雄市には出産祝い金のような制度はないのか。

市長：市の子算には限りがあるので、祝い金をやめて子供の医療費助成に充てるようにした。

参加者：子供が多いと保育料の負担が大きくなる。

市長：保育料は国の制度に基づいて決まっている。何らかの支援を考えたい。

参加者：育休を取得するとボーナスが減ると聞いた。

市長：育休取得推進の観点からも、国に意見を伝えたい。

参加者：子供たちの扱いが難しく先生が困っているのではないかと思うことがある。

市長：先生だけではなく、保護者や地域の人と一緒に子供たちをほめる・しかるといふことを行う必要があると思う。

参加者：朝日町は住宅が増え、人口が増え、子供も増えているが、子供の遊び場所が少ない。

市長：行政が単独で整備することは予算面から難しい。今後はみんな（地域と行政）で公園を作るといふ考えになっていくのではないか。今後のモデルケースとして地域で検討・実施してもらいたい。

参加者：子供たちが道路で遊んでいることがある。幹線道路の裏道になっているのか交通量も多い割にはスピードを出す自動車が多い。子供の通学路でもあるので対策を考えてほしい。

市長：後日、担当課と皆さんと一緒に自分でも現場を確認したい。ゾーン30という速度制限区域の設定や、子供たちや歩行者が通る部分の舗装を色分けするといった方法を検討する。

参加者：公立保育園・幼稚園がなくなったのはなぜなのか。

市長：民間保育園や幼稚園でも十分な対応が可能となり、行政が一律で行うという必要性がなくなったと判断した。

参加者：武雄市に家を建てたが夫が転勤で単身赴任となり経費が掛かり、家の維持が大変で、将来に不安がある。例えば、そのような場合の固定資産税の減免などはないか。

市長：財産にかかる税であり、減免というものはない。新幹線開業に合わせて通勤・通学助成を行うという方法を考えている。

参加者：放課後児童クラブの利用制限が厳しく、子供を預けて働くことができない。民間託児施設は利用料が高い。利用料の補助などがあればお母さんも働きに出やすい。

市長：子育てだけではなく男女共同参画においても大事な話で、非常に良い話を聞くことができた。まだ考えがまとまっていないが、いろいろと考えてみたい。

市長：今回、いろいろな話を聞くことができてよかった。今日のような大勢の前では話しにくい、あるいは聞きにくいことがあれば機会を設けるのでぜひ相談してほしい。